悪者たちのぶつくさ３

imaiwa

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
悪者たちのぶつくさ３

【Ｎコード】
Ｎ５９５１Ｅ

【作者名】
ｉｍａｉｗａ

【あらすじ】
悪者たちのぶつくさ２色々編の続編。勇者Ａが活躍する物語。魔物たちと人間の複雑な思いが交錯するファンタジーアドベンチャー！

第３３話　勇者Ａ編　心機一転、初出勤！

勇者Ａ　さーてと、そろそろ行かないとな・

勇者Ａ　初出勤だ。

リン　勇者Ａ、バッグにお弁当いれたわよ

勇者Ａ　ありがと、リン！

リン　頑張ってね！

勇者Ａ　うん

勇者Ａ　じゃ、行って来るわ。

リン　いってらっしゃーい

勇者Ａはアパートを出た。

勇者Ａ　プル、おはよ

プル　プルププ（おはよ、勇者Ａ！）

勇者Ａ　行こっか。

プル　プルププ（御意！）

勇者Ａとプルはキル村を出た。

馬車は草原を勢い良く走り抜けていく。

プル　ｚｚ

勇者Ａ　プル、着いたぞ！

プル　プルププ（ん・・？朝？）

勇者Ａ　おめー、初出勤だってのに

勇者Ａ　緊張感続かない奴だな。

勇者Ａ　朝やる気だしてた癖に・・

プル　プルププ（すまね、昨日緊張して寝れなかったんだよ）

勇者Ａ　ん？

勇者Ａ　勇者訳：　俺は夜行性だから朝は弱いって？

プル　プルププ（そんな事いってねーよ！）

勇者Ａ　そんなことはどうでもいい、事務所はいるぞ

勇者Ａ　初仕事だ、気合いれろよ！

プル　プルプル（ヘイ！）

勇者Ａは階段を上ると事務所の扉を開けた。

勇者Ａ　おはようございます～！

シギト　お、おはよ！

フィーネ　勇者Ａ、おはよう～

フィーネ　早いわね

勇者Ａ　初出勤ですから！

フィーネ　あはは

シギト　気合入ってるな

勇者Ａ　はいりまくりだよ

勇者Ａ　なんてったって・・

勇者Ａ　俺はこういうとこで働いた事ないからな。

シギト　まぁ、そう緊張するなよ。

シギト　いつものようにやればいい。

勇者Ａ　そう？

勇者Ａ　シギト、俺は頑張るよ。

シギト　期待してるぞ

シギト　プルよ。

プル　プルププ（へい！）

シギト　魔物たちは魔物ルームに行くのがここの決まりだ。

シギト　もう、みんな集まってるから、挨拶してこい。

プル　プルププ（わかりやした！）

勇者Ａ　じゃ後でな、プル。

プル　プルププ（またな、勇者Ａ）

魔物ルーム

コンコン！

プルは触手でドアをノックした。

ドカ！

シルディ　プル～！おはよ！

シルディ　あれ？

プル　プルププ（おはよ・・・）

プルはドアで潰されている。

シルディ　やだ・・ごめん・・

プル　プルププ（アハハ・・平気だよ・！）

熊五郎　お、プル来たか

プル　プルププ（熊五郎、オス！）

熊五郎　おはよ！

熊五郎　今日は新しい事務所で

熊五郎　しかも、新メンバープルを迎えての初仕事だ。

熊五郎　なんかわくわくするな

シルディ　そうね！心機一転頑張らないとね！

プル　プルププ（頑張ります！）

熊五郎　プル、やる気まんまなんだな

プル　プルププ（うん、俺はやるよ！）

熊五郎　楽しみだな、腕がなるぜ！

熊五郎　あ、そうそう

熊五郎　残念な話が一つあるんだ

プル　？

熊五郎　ゾルが抜けた。

プル　プルププ（え・？）

熊五郎　詳しい事は分からないんだが

熊五郎　なんかあったらしい。

熊五郎　まぁ、奴はあーいう性格だからな・

熊五郎　俺は驚かなかったが・

プル　プルププ（ゾルさんってあの暗めの人？）

シルディ　そうそう、あの陰気な奴！

シルディ　まぁ・・あぁ見えて・・

シルディ　結構仲間思いなとこも、あったんだけどね・・

プル　プルププ（へ～・・残念だね・）

熊五郎　まぁ、仕方ないさ

熊五郎　俺達は残されたメンバーで、仕事を遂行するだけだ。

シルディ　うん！

熊五郎　よろしくな！プル！

プル　プルププ（よろしく！）

シルディ　よろしくね～！

ue

To Be Contin

第３４話　勇者Ａ編　依頼案件！

部屋にあるスピーカーからシギトの声が流れる。

シギト　みんな、依頼案件を今から説明する。

シギト　会議部屋に集まってくれ。

シルディ　！

プル　プルププ（ん？どこでしゃべってんだ？）

熊五郎　あぁ

熊五郎　シギトの呼び出しだ。

熊五郎　プル、行くぞ！

プル　プルププ（おう！）

プルたちは会議部屋に移動した。

シギト　みんな集まったな

熊五郎　ソリアは？

シギト　あいつには別の用事をたのんである。

シギト　今回の任務には不参加だ。

熊五郎　そっか

勇者Ａ　あれ、ゾルって魔物は？

シギト　ああ・・あいつは・・

シギト　奴は・・里に帰った・

勇者Ａ　ふーん

シギト　・・・・

勇者Ａ　（ちょっと助かったかな・・苦手なタイプだったし・・）

シギト　重要な話や、案件の話はこの部屋でするので

シギト　覚えていてくれ。

勇者Ａ　分かった。

プル　プルププ（ｏｋ！）

シルディ　ねね、早く話して！

シギト　そう急かすな

シルディ　エヘ

シギト　まず、この写真を見てくれ。

シギト　これは、オルカ村から北へ・・

シギト　３０ｋｍ行ったリアという都市にあるシルベスター城だ。

シギト　その昔、トレーユ１３世が建てた城だそうだ。

シギト　この城で不可解な事が起こっているらしい。

シギト　最近この城に移ってきた依頼主の話だと

シギト　夜な夜な、奇怪な音が城内に響き渡ったり

シギト　メイドが鉄の鎧をきた兵士の幽霊を目撃したという。

シギト　依頼主も白いドレスの女の幽霊を見たらしい。

シギト　これがゴーストの仕業なのか

シギト　誰かの悪戯なのかは分からないが

シギト　依頼主はこのままではノイローゼになると言うので

シギト　私になんとかしてほしいということだ。

シギト　この不可解な現象の原因を探り

シギト　その排除が俺達の今回の任務だ。

シルディ　へ～、ちょっとオカルトっぽいね

シルディ　楽しそう！

熊五郎　魔物か幽霊の仕業が知らんが

熊五郎　俺がとっちめてやるよ！

勇者Ａ　（怖いよ～・・・）

勇者Ａは震えている。

プル　プルププ（俺・・こういうの苦手なんだよな・）

プルも震えている・・

シギト　取り合えず、今からすぐ出発するので

シギト　みんな、準備をしてくれ。

シルディ　はい～！

熊五郎　よっしゃ！

勇者Ａ　よ・・よっしゃ・・

シギト　ん？どうした勇者Ａ

シギト　顔色悪いな

勇者Ａ　そんなこと・ないよ・

プル　プルププ（頑張るぞ・・）

勇者Ａはトイレにいた。

勇者Ａ　（はぁ～・・やだな～・）

勇者Ａ　（俺、魔物はいいんだけど、幽霊は苦手なんだよな・）

トイレにプルが入ってきた。

プル　プルププ（勇者Ａここにいたか）

勇者Ａ　どうしたプル？

プル　プルププ（俺行きたくないよ・・）

勇者Ａ　あん？おめーも怖いってか？

プルは触手を縦に振って頷いた。

勇者Ａ　そうか・・・

勇者Ａ　おめーも苦手なんだな・・

勇者Ａ　ふ・・・

プル　プルププ（まさか、、勇者Ａもか・）

勇者Ａ　俺達・・似たもの同士だな・・

プル　プルププ（本当だね・）

二人は事務所の窓から、自宅の方向を見ている。

勇者Ａ、プル　（おうち帰りてぇ・・）

Ｔｏ　Ｂｅ　Ｃｏｎｔｉｎｕｅ

第３５話　勇者Ａ編　休憩！

シギトたちは、リアに着いた。

勇者Ａ　ふ～結構走ったな。

プル　Ｚｚｚ…

城下町リア

ピリカ大陸の北に位置するこの都市は、貿易商が行き来し
人の交流の頻繁な場所である。
様々な店が立ち並び、住宅地もあちこちに点在している

シギト　よし、見えてきたぞ、あの城がそうだ。

シルディ　へ～結構大きな城ね。

熊五郎　俺はらへってきた・・

勇者Ａ　俺も・・

シギト　そうだな、実は俺もなんだ。

シギト　まだ時間はある。

シギト　城へ行く前に、どこかに寄ろう。

シルディ　やった！

シギト　この店がいいな・

シギト　ペット、魔物来店ｏｋだそうだ。

勇者Ａ　魔物は食べ物屋に普通入れないもんな。

シギト　まぁ、魔物をパーティに入れている者が多いからな。

シギト　こういう店も最近は増えている。

シルディ　私はどこでも入れるんだけどね！

シルディ　プルと熊五郎はちょっと目立つね！アハハ！

熊五郎　ち！

プル　プルププ（なんでもいい・・早く食わせてくれ・・）

シギト　じゃ入ろうか。

店員Ａ　何人様ですか？

シギト　大人二人、魔物３だ。

店員Ａは、シギトの後ろのプル達を見た。

店員Ａ　じゃ奥の席へどうぞ。

シルディ　いい景色～！

シルディ　ここ少し高台にあるから、街が眺めれるね！

勇者Ａ　お、あそこの席の奴も魔物つれてるぞ？

シルディ　本当だ。

シルディ　ガイコツ騎士だね。

シルディ　あいつ何食べるんだろね

シルディ　ちょっと聞いてくる！

シギト　こらこら・・

シルディが帰って来た。

勇者Ａ　何食べるって？

シルディ　・・・・聞かないで・・

シルディ　聞くんじゃなかった・・食欲減ったわ・・

プル　プルププ・・（飯～飯はまだか・）

シギト　お前達遠慮なく注文してくれ。

シギト　全て経費から落ちるんで金の事は気にするな。

勇者Ａ　おぉ、分かった！

勇者Ａ　えーっと・何にしようか・

勇者Ａはみんなに見えるように、メニュー表をテーブルに開いた。

シギト　俺は子羊の肉、山の息吹セット（パン、ホットコーヒー付き）でいいよ。

勇者Ａ　ほぉほぉ・

勇者Ａ　じゃ俺は、カツカレーでいいよ。

シルディ　ええっと・私は・・茄子のスパゲディーでいいわ。

熊五郎　俺は・・地鶏もりだくさんセットでいいよ。

シルディ　何それ？

熊五郎　鶏が丸ごと3匹入ったセットだそうだ。

シルディ　なんかすごいね・・

シルディ　プル、決まった？

プル　俺は・・ピリカ牛丸ごとセットで

シルディ　うわ・・牛一頭はいってるんだ・・

ウェイトレスＡ　ご注文お決まりになられましたか？

勇者Ａ　じゃこれとこれとこれとこれとこれとこれ！

ウェイトレスＡ　分かりました。

数分後

ウェイトレスＡ　お持ちしました。ごゆっくり～

みんな思い思いに食べ散らかしている。

その中でシギトとシルディはフォークとナイフを

うまく使い上品に食べている。

勇者Ａ　ブス、ムシャムシャ、ごくん

プル　プルププ（はー食った食った！）

勇者Ａ　うまかったな～

シギトは顔をナフキンで軽く拭うと、フォークとナイフを静かに置いた。

シギト　さてと・・

シギト　そろそろ出るか。

シルディ　はーい！

プル　プルププ（ＯＫ！）

勇者Ａ　う～苦しい。

シギト達は店を出ると、城を目指して馬車を走らせた。

ｎｕｅ

Ｔｏ　Ｂｅ　Ｃｏｎｔｉ

第３６話　勇者Ａ編　怪談！

シギト達は城に着くと依頼主に部屋に案内された。

依頼主Ａ　はるばるご苦労様です。

シギト　ども、さっそく仕事の話に入りたいんですが。

依頼主Ａ　はい

依頼主Ａ　分かりました。さて何から話しましょうか・・

依頼主Ａ　私は、ここの城をあるサイトで、売りに出されていたのを見つけまして

依頼主Ａ　一目で気に入ってしまって、この城を即金で落札致しました。

依頼主Ａ　古城に住むのが私の元来の夢でして・・

依頼主Ａ　こちらに全ての家財道具を運び終えて

依頼主Ａ　一ヶ月前から住み始めたんですが

依頼主Ａ　丁度・・３日目くらいでしょうか・・

依頼主Ａ　城の地下の方から・・何か人間のうめき声のようなものが

依頼主Ａ　たまに聞こえ出すようになりまして・・・

依頼主Ａ　初めは、風かなんかの音だろうと、気に留めませんでした。

依頼主Ａ　しかし・・ある日の夜・・３階にある部屋に入ったときの事です。

依頼主Ａ　私が入ると、何か暗闇に気配を感じました。

依頼主Ａ　私は息を呑みながら、その気配のするほうをランプで照らしました。

依頼主Ａ　すると・・・・

勇者Ａ　ごくり・・

依頼主Ａ　白いドレスを着た女性が、ベッドに座っていたんです・・

依頼主Ａ　その女性の幽霊は私を見て、ニヤリと笑ったかと思うと・・

依頼主Ａ　すーっと壁の方へ消えていきました・・

依頼主Ａ　それ以来、そういう不思議な現象が、
この城にたびたび起こるようになりました・・

依頼主Ａ　汚い格好をした老婆の幽霊が、椅子に座っていたり・・

依頼主Ａ　夜寝ていると・・誰かに見られてる気配を感じたり・・

依頼主Ａ　私は恐ろしくって・・最近、心が落ち着く日がございませぬ・・

勇者Ａ　（ひ～～・・）

プル　（こぇぇ・・）

シルディ　（面白そう・・♪）

シルディは楽しそうにその話を聞いている。

依頼主Ａ　アンナ、お前も見たんだろ？説明してくれ。

アンナ　はい・・ご主人様の部屋を、掃除していた時の話です。

アンナ　何か階段の方で物音がするんで・・部屋を出て見てみると。

アンナ　誰かが下から上がってくるんです・・

アンナ　ガチャ～ン・・ガチャ～ンって・・

アンナ　私は・・その音の方向に目を凝らしていると

アンナ　だんだん影が近付いてくるんです。

アンナ　私とご主人様しかいないこの城で・・

アンナ　もしや夜盗かと私は思い、壁に掛かっている剣をとっさに掴みました。

アンナ　その影はガチャ～ン・・ガチャ～ンと

アンナ　不気味な金属音を立てながら、じりじり近付いてきます。

アンナ　私はその音がすぐそこまで、来たのを感じ取ると

アンナ　剣をかまえました・・

アンナ　その影が壁にかけられた、蝋燭の光に照らされてた時・・

アンナ　・・見てしまったんです・・

アンナ　鎧を着た兵士のような者の姿を・・

アンナ　私をみるや・・その兵士は一瞬動きを止めましたが。

アンナ　しばらくすると・・その兵士は・・・

アンナ　私に向かって・・突進してきました・・

アンナ　ガチャンガチャンガチャンガチャン・・・

アンナ　私は目をつぶって、剣を前に突き出しました。

アンナ　静かになったので・・・

アンナ　私は恐る恐る目を開けると・・

アンナ　その鎧の兵士は私の剣を、体にすり抜けた状態で

アンナ　私の前で止まっているんです・・

アンナ　そして・・そのまま私の体もすり抜けていくと・・

アンナ　階段の上の方へ消えていきました・

アンナ　あまりの恐怖に・・私はその場を逃げ出しました・・

アンナ　その夜は・・・恐ろしくて・・一睡もできませんでした・・

シルディ　ホラ～だわ・・！

プル　プルププ（怖すぎる・・）

勇者Ａ　（怖いよ～・・）

シギト　なるほど・・・

シギト　その現象はすべて夜に、起こっているんですよね？

依頼主Ａ　そうです。

アンナ　はい・・

シギト　この城の内部を調査する必要がありそうですね。

依頼主Ａ　はい、隅々までお願いします・・

依頼主Ａ　皆様の部屋は用意しています。

依頼主Ａ　何日かかってもいいので・・・

依頼主Ａ　この一連の怪奇現象を究明していただき

依頼主Ａ　怪奇現象を沈めて欲しいんです・

依頼主Ａ　この城に穏やかに暮らせるようにしてほしい。

依頼主Ａ　私は一度出て行こうかとも、思いましたが・・

依頼主Ａ　踏みとどまりました。

依頼主Ａ　この城の風貌に私は惚れ込んでいまして

依頼主Ａ　出て行くのはもったいない・・そう思ったからです。

シギト　・・・・・

シギト　分かりました・・・

シギト　あなたのその、城へ向ける愛情ともいうべきもの

シギト　その熱い気持ちに私は心打たれました。

シギト　必ずや解決して見せますよ

依頼主Ａ　よろしくお願いします・・

アンナ　ささ、皆様、部屋へ案内いたしましょう。

シギト達はアンナに案内されて、部屋へやって来た。

部屋には高級な絨毯がしかれており、
アンティーク風のベッドが
３つ置かれている。
天井にはシャンデリア、格子状の窓が４つある。

アンナ　朝昼夕と、こちらへ食事をお運びします。

アンナ　では後ほど参ります。

アンナ　今回の件・なにとぞ・・よろしくお願いします。

アンナは部屋を去った。

シルディ　綺麗な部屋ね

勇者Ａ　プル、あちこち跳ね回ってベッドや絨毯汚すなよ！

勇者Ａ　そこの床で寝てろ

プル　プルププ（分かっているよ・・）

シギト　まぁ、みんな少し休んでくれ。

シギト　旅の疲れもあるだろう。

シギト　１時間後、調査開始だ

みんな　はーい、ＯＫ　プルププ　おう！

nue
To Be Conti

第３７話　勇者Ａ編　配置！

シギト　みんな休みながら聞いてくれ。

シギト　これから、この城を隅々まで調査するわけだが

シギト　闇雲に歩き回っても、手がかりは出ないだろう。

シルディ　そうかもね

シギト　探す地点を絞ろうと思う。

シギト　まず、依頼主とアンナの話を総合して書き連ねて見る。

1、地下の方から声が聞こえる。
　この城には地下牢があるらしい。

2、３階の部屋に依頼主Ａが入ったとき白い女の幽霊を目撃

3、老婆の幽霊を目撃
（これは聞いた話だと、２階の使われていないメイド用の部屋だそうだ）

4　依頼主Ａの４階にある自室のすぐ外の階段で鉄鎧の幽霊を目撃。

5、アンナの住む部屋は３の部屋の隣だそうだ。

シギト　今からまず初めに、この5点を中心に調べて行こうと思う。

シギト　この城には明かりが完備されている部屋と、そうでない部屋がある。

シギト　できるだけ、日差しのある昼の間に調査するのがベターだが

シギト　日のあたらない場所もあるので、各人にこのランプを支給する。

シギト　何かあったときに、すぐ連絡ができるように

シギト　トランシーバをプル以外に支給する。

シギト　プルは人間語がしゃべれないから

シギト　勇者Ａと常に行動を共にするように。

シギト　大体話はこんなもんだ。

シギト　質問ある奴は、言ってくれ。

勇者Ａ　とりあえず、誰がどこにいくか決めない？

シギト　そうだな。

シギト　勇者Ａとプルは2階の老婆が出た部屋を探った後
2階全体を調べてくれ。

勇者Ａ　ｏｋ！

プル　プルププ（へい！）

シギト　熊五郎は、４階の依頼主Ａの部屋とその廊下、そして４階全体を頼む。

熊五郎　わかりやした。

シギト　シルディは3階の白い女が出た部屋と3階全体だ。

シルディ　分かった～！

シギト　俺はこの城の1階と地下室を調べてみる。

シギト　俺の直感だが・・・

シギト　ここには確かに、何か得体のしれないものが存在している。

シギト　油断はしないでくれ。

シギト　そして無理せず、何かあればすぐ連絡を取るように。

シギト　ＰＭ2時から開始だ、後３０分あるから

シギト　適当にくつろいでくれ。

シギト　話は以上だ。

熊五郎は窓から外の景色を見ている

シルディはシギトと談笑している。

勇者Ａ　プルよ～、俺怖いけど、もう吹っ切れたよ

勇者Ａ　頑張ろうな

プル　プルププ（うん！）

勇者Ａ　しかし老婆の幽霊って、どんな顔してるんだろうな？

プル　プルププ（さぁ・・）

勇者Ａ　やっぱり、笑い声は「イヒヒヒヒ」ってかんじなんだろうか・・

プル　プルププ（あんたそれ、魔物の魔法オババじゃん・）

勇者Ａ　考えても仕方ないよな～・

勇者Ａ　プル、なんか出ても、俺置いて逃げるなよ！

プル　プル（ふ・・俺が一度でも勇者Ａ置いて、逃げた事あるか？）

勇者Ａ　愚問だったな。

勇者Ａ　頼りにしてるぜ、相棒！

プル　プルププ（任せとけ！）

シルディ　プル～ちょっと背中見せて。

プル　プル（ん？）

シルディ　ペタっと！

プル　プル（なんか貼った？）

シルディ　これね～、私が魔法で作った探知機。

シルディ　どこにいても、私はプルの居場所が分かるんだよ。

シルディ　取り合えず、全員に貼ったから。

シルディ　勇者Ａも貼っといてよ。

勇者Ａ　おぉ、ありがと。

勇者Ａはズボンの中に手を突っ込むとお尻に貼った。

シルディ　ちょっと～＞＜

勇者Ａ　ここなら剥がれないだろ？

シルディ　それはそうだけど・・なんかやだな～・・

シギト　みんな時間だ、行くぞ

みんな　ＯＫ！

To Be Continue

第３８話　勇者Ａ編　メイドの霊！

勇者Ａ　ここが２階の老婆が出た部屋だ・・・

プル　（ごくり・・）

勇者Ａ　入るぞ！

・・・・・・・キィ～～

勇者Ａ　真っ暗だな・・

勇者Ａ　なんも見えない

勇者Ａ　ランプつけるか

勇者Ａ　電源はっと・・

突然、部屋が明るくなった。

勇者Ａ　な・・なんだ～～～～！

プル　プルププ（ひ～～！）

？？　あら、どなたですか？

勇者Ａ　え・・・

部屋にはメイドの姿をした、若い女性が立っている。

勇者Ａ　ええっと・・勇者Ａです。

プル　プルププ（プルだよ）

勇者Ａ　あんた誰？

？？　私はこの城に仕える、メイドのラナと申します。

勇者Ａ　え・・ここには確かメイドは、アンナさんしかいないはず・

ラナ　アンナ？どなたですか？

ラナ　それに、この城にはメイドは５人いますよ。

ラナ　この階にメイドの部屋が並んでいます。

ラナ　ところで、私に何か用ですか？

勇者Ａ　俺ここ探索頼まれてて・・

ラナ　？・・・あぁ・・

ラナ　見回りをしている城の兵士の方ですね。

勇者Ａ　え・・・？

ラナ　お仕事ご苦労様です。

プル　プルププ（なんなんだ・？）

ラナ　喉乾いていませんか？

ラナ　お紅茶お入れしますよ。

勇者Ａ　えーっと、ホットでミルクと砂糖２つお願い。

勇者Ａは順応が早い。

ラナ　そこの魔物ちゃんは、何がいいかな？

ラナは優しく微笑む。

プル　プルププ（えーっと・・あれ・・俺一体何を・・）

ラナ　そうだわ、戸棚にクッキーがあったわ。

ラナは戸棚から、クッキーの箱を取り出しテーブルに置いた。

ラナ　ここに座って、寛いでいってくださいな。

二人は用意してもらった椅子に座る。

ラナ　召し上がれ。

勇者Ａ　ありがと～ラナ

プル　プルププ（俺、そんなの・・）

プル　ニュウ～ゴクン！

プルは出された物は必ず食べる。

プル　（甘ぇ・・・）

１０分後

勇者Ａ　俺、リンって家内いるんですけね

勇者Ａ　かわいくって本当に、アハハハ

ラナ　いいですね、私も結婚したいわ。

プル　プルププ（リンさん綺麗ですよ、アンナさんも美人だけど！）

勇者Ａ達はラナと楽しそうに話していた。

・・・・・・ボーンボーン・・

部屋にある振り子時計の針が、夕方５時を指す。

ラナ　あら、すっかり話こんじゃったわ。

勇者Ａ　本当だ。

プル　プルププ（いつの間にか、こんな時間だ。）

ラナ　食事の準備をしなくては・・

ラナはそう言うと、部屋を出て行った。

ラナが部屋を出た瞬間、部屋が真っ暗になる。

勇者Ａ　ええ・・なんだ～

プル　プルププ（停電か？）

勇者Ａ　プル、ランプつけろ。

プル　プルプル（ヘイ！）

勇者Ａ　ん？

勇者Ａ　あれ・・さっきまでと部屋の様子が・

プル　プルププ（埃臭いし、くもの巣はってる・）

勇者Ａは部屋の外へでた。

勇者Ａ　うーん、どうなってるんだ・・？

プル　プルププ（さっきまで綺麗な部屋だったのにね・）

勇者Ａ　【シギト、シギト！】

勇者Ａはトランシーバをつかった。

シギト　【どうした？】

勇者Ａ　【例の部屋に俺入ったんだけどさ～】

勇者Ａは一部始終をシギトに話した。

シギト　【ここには、アンナさんしか、メイドはいないはずだ】

シギト　【ましてや、５人もいるわけがない】

勇者Ａ　【それがいたんだって・・結構若い、かわいいメイドさんが】

シギト　【おかしいな・・】

シギト　【・・・・】

シギト　【俺の推測では・・】

シギト　【その娘は・・昔その部屋に住んでいたメイドの霊だと思う】

勇者Ａ　【ええ・・でも、お婆さんじゃねーぞ？】

シギト　【霊はその時々で、年齢が変わるという。】

シギト　【霊とは何も意思があるわけじゃないんだ。】

シギト　【人は生きている時に感じた事を、残留思念としてこの世に残す。】

シギト　【お前はその残留思念と出くわしたんだよ。】

勇者Ａ　【ええ・・・じゃ俺と話してたさっきの人は・・】

勇者Ａ　【幽霊だったのか・・】

勇者Ａは背筋に寒いものを感じた。

プル　プルププ（う・・だんだん怖くなってきた・・）

シギト　【取り合えず、そこの部屋はいい、他も頼む】

勇者Ａ　【うぇ・・】

シギト　【霊を怖がってちゃ、この稼業はやっていけんぞ】

勇者Ａ　【分かった・】

シギト　【じゃ、切るな】

カチャ・・

勇者Ａ、プル　・・・どないしよ～・・

ｎｕｅ

Ｔｏ　Ｂｅ　Ｃｏｎｔｉ

第３９話　勇者Ａ編　探索！

３階

シルディ　ここね。白いドレスの女の人が出たって部屋は。

シルディ　入ってみるか。

カチャ

シルディ　ん～

シルディ　（・・・まだ手入れされてないけど）

シルディ　（・・・大きなベッド、部屋の大きさ、大きな鏡）

シルディ　（・・・使われてる家具から予測すると）

シルディ　（・・・偉い人が、暮らしてた部屋みたいね・）

シルディ　（・・・お妃様かも・）

シルディ　（・・・大きな窓があるわ。）

シルディ　（・・・都市を一望できるわね。）

シルディは壁に目をやった。

シルディ　（・・・肖像画があるわ・・）

シルディは絵の埃を掃った。

シルディ　（・・・やっぱりそうだわ・・王冠をつけたお妃様の肖像画・）

シルディ　（・・・とういう事は、ここに出た幽霊はお妃様！）

シルディ　（・・・幽霊に直接あって話したいところだけど）

シルディ　（・・・窓があるから、今はまだ明るいし、出てこないだろうな～・）

シルディ　（・・・他見にいこ！）

一階

シギト　一階は特に怪しい物はなにもないな・・

シギト　地下牢へ降りてみるか。

シギト　（・・・この階段か。）

シギト　（・・・暗いな。）

シギト　（・・・明かりをつけよう。）

シュボ

シギトはランプに火をつけた。

シギト　牢屋か・・

シギト　ぞっとしないな・

シギト　（・・・ん・・？あの牢にある黒い影はなんだ・）

シギト　（・・・骨・・？）

シギトは牢を開けると、中に入りそのガイコツを照らした。

シギト　（・・・トーリ13世の頃の囚人の骨か・・？）

シギト　（・・・いや・・それはないな・・このガイコツは新しい・・）

シギト　（・・・どういうことだ・・）

4階

熊五郎　（・・・うーん、なんも手がかりはないな。）

熊五郎　（・・・階段も怪しいところはない・）

熊五郎　（・・・鉄鎧の兵士が、人間が化けたものだとしたら）

熊五郎　（・・・階段を突進したら、石階段に鉄がこすれた形跡があるはず。）

熊五郎　（・・・それが無いということは、幽霊か・・）

熊五郎　（・・・もしくは、アンナって人の作り話になる。）

熊五郎　（・・・俺はあのアンナって人が、怪しいと思ってるんだけどな）

熊五郎　（・・・主人に不満があって、嫌がらせしてるとか・・）

熊五郎　（・・・もうちょっと探るか・・）

熊五郎は移動した。

熊五郎　（・・・ん？これは・・・王様の謁見の間のようだな）

熊五郎　（・・・あそこに飾られてる肖像画はトーリ１３世か）

熊五郎　（・・・両脇に、鉄の鎧の置物）

熊五郎　（・・・こいつが動いたとか？）

熊五郎　（・・・ふ・そんな事あるわけないか・）

ブー

トランシーバーが鳴った。

カチャ・・

熊五郎　【はい】

シギト　【熊五郎か、もうすぐ夜は近い。】

シギト　【夕食も用意されるので、一度全員部屋に戻るぞ。】

熊五郎　【分りました】

カチャ

熊五郎　戻るか・・・

To Be Continue

第４０話　勇者Ａ編　シギトの判断！

アンナ　夕食の用意お持ちしました。

シギト　どうも。

アンナは夕食をテーブルにセッティングしていく。

アンナ　でわごゆっくり。

勇者Ａ　ありがと、アンナさん

プル　プルププ（またね～！）

アンナは部屋を出た。

シギト　調査報告は後でいい、今は夕食を堪能してくれ。

シルディ　はい～！

熊五郎　もう食べてるぞ、ムシャムシャ

勇者Ａ　うめ～！

プル　プルププ（ゴクン！）

１時間後

シギト　さてと・・みんな食べ終わったな。

シギト　各々報告頼む。

勇者Ａ　俺はあの部屋で、メイドの幽霊にあったけど

勇者Ａ　それ以外は大して、何にも無かったよ。

シルディ　へ～幽霊と会ったんだ。

勇者Ａ　うん。

シルディ　メイドの幽霊か・・

熊五郎　俺も大して手がかりなし。

シルディ　私が調査した部屋は、たぶんお妃様の部屋だよ。

シギト　そうか、白いドレスの幽霊はトーリ１３世のお妃かも知れないな

シルディ　うん。

シルディ　他にはこれといって、気になった所なかったわ。

シギト　俺は一つ気になった事があった。

シギト　地下牢で比較的新しい、人間の骸骨を見つけた。

シルディ　えぇ・・

シギト　その事を依頼主Ａに聞いてみると、こちらへ来た時

シギト　掃除婦を雇ったらしいのだが、行方不明になっていたという。

シギト　依頼主Ａは、仕事が嫌になって、出て行ったと思ってたらしいが。

シギト　もしかしたら、その掃除婦の遺体かもしれないということだ。

シギト　依頼主Ａが８時に通報するらしい、もうすぐ警察がくるはずだ。

熊五郎　警察が・？やっかいだな

シギト　うん、今回の案件を解決したいのだが

シギト　城に変死体があったということになると

シギト　城主の依頼主Ａとアンナは疑われるだろうな。

シルディ　あら～じゃどうするの？

シルディ　そうなったら、今回の仕事は未解決で帰るしかない？

勇者Ａ　どうする？シギト

プル　（なんか難しい話してるな・・）

ウーーーーウウ

シギト　警察が来たようだ。

シギト　行ってみよう。

入口で依頼主Ａが事情聴取を受けている。

警察官Ａ　ん？あんたたち、雇われたハンターだってな。

警察官Ａ　依頼主Ａから話しは聞いた。

警察官Ａ　帰っていいよ。

依頼主Ａ　シギトさん、すみません・

依頼主Ａ　私とアンナは取調べを受けに、警察署に拘束されるでしょう。

依頼主Ａ　幽霊どころじゃなくなりました。

依頼主Ａ　お金はもう、銀行に振り込んでいます。

依頼主Ａ　帰っていいですよ。

シギト　依頼主Ａさん、アンナさん、一つだけ聞いていいですか？

シギト　私の質問に私の目を見て答えてください。

依頼主Ａ　なんなりと

アンナ　はい

シギト　今回の変死体に関わりはありますか？

依頼主Ａ　全く持ってございません。

アンナ　私も全然しりませんでした。

シギトは二人の目を氷のような目で見つめる。

シギト　・・・・

シギト　ふむ、嘘じゃないようだ。

シギト　分かりました。

シギト　でわ、私達は帰ります。

シギト達は馬車に乗り、街へ走らせた。

シギト　みんな、今日はこのホテルに泊まるぞ。

勇者Ａ　ええ？帰らないの？

シギト　いや、帰らない。

シギト　この仕事は続行だ。

シギト　俺はあの二人が掃除婦を殺したとは思えない。

シギト　そして、あそこには得体のしれないものが、存在している。

シギト　これを知りながら、帰ることはできない。

シルディ　やっぱりね！

熊五郎　さすが、シギトだ！

シギト　警察が現場検証を済ませて、帰ったら

シギト　城に乗り込むぞ！

勇者Ａ　おう！

プル　プルププ（へい！）

第４１話　勇者Ａ編　潜入！

シギト　深夜０時だ。

シギト　誰もいないな・？

シギト　潜入するぞ

みんな　ＯＫ！

シギト　今回は一緒に動くぞ

入口の門は閉められている。
立ち入り禁止の札とバリケードが張られている。

シルディ　ロープを私が２階のテラスから垂らすから

シルディ　みんな上がってきて。

シギト　任せた。

熊五郎　頼むぞ。

勇者Ａ　頑張れ！シルディ

シルディはそう言うと、透明の羽を広げ飛び立った。

シルディ　ＯＫ！

シギト　じゃあ、お前達順番に上っていけ。

熊五郎　く・・俺・・手が上れるように出来てないんだよな・・

プル　プルププ（これしきの高さロープはいらねぇ・・）

プルはピョンピョン跳ね回ると、勢いつけてジャンプした。

高く舞い上がると、テラスに着地した。

熊五郎　すげぇ・・

熊五郎　俺にはジャンプ力もないし、ロープも上れないが

熊五郎　この爪がある。

熊五郎は爪を伸ばすと、壁に突きたて上っていく。

熊五郎　なんだ・初めから爪使えばよかった。

勇者Ａはスルスルスル～っと上っていく。

シギト　勇者Ａ器用だな。

勇者Ａ　俺は山の崖のぼりが、趣味だからな。

勇者Ａは意外な趣味を持っていた。

シギト　みんな上がったな。

シギトは鍵穴にピンを入れると難なく鍵を開けた。

シギト　この窓から入るぞ。

みんな　ｏｋ！

キィ～

シギト　暗いな。

シギト　みんな、ランプをつけろ。

プルは触覚を発光させた。

シルディ　プルすごい

プル　プルプル（えへへ）

勇者Ａ　便利だな、お前の触覚。

シギト　ここは２階だ。

シギト　メイド達の部屋があるところだな。

勇者Ａ　そうだ、ラナの部屋に行ってみよう。

熊五郎　ラナ？

勇者Ａ　俺がみたメイドの幽霊だ。

シギト　ふむ、言ってみるか。

シルディ　行こう行こう！

シギト達はメイドの部屋が、立ち並ぶ廊下にやって来た。

勇者Ａ　ここだ。

勇者Ａ　明かりが漏れてる・・

プル　プルププ（う・・怖い・・）

シギト　行くぞ

勇者Ａ　うぅ・・おら～！

ガターン

ラナ　どなた？こんな夜分遅くに・・

シルディ　あら、美人な幽霊！

勇者Ａ　ラナ

ラナ　あら、また来たのね、警備の兵士の方。

ラナ　ん？　その後ろの方々は？

勇者Ａ　あぁ、俺の仲間だ。

シギト　はじめまして。

シルディ　シルディよ！

熊五郎　熊五郎だ。

勇者Ａ　ラナ

ラナ　何ですか？

勇者Ａ　実は俺、ここの兵士じゃないんだ。

ラナ　え・？

勇者Ａ　ここを調査しているハンターだよ。

ラナ　ハンター・・

勇者Ａ　ラナに話を聞きたくて、こんな遅くにおしかけたんだ。

ラナ　話？

ｉｎｕｅ

Ｔｏ　Ｂｅ　Ｃｏｎｔ

第４２話　勇者Ａ編　魔物！

ラナ　話って何の・？

勇者Ａ　ん～？何話そう？

勇者Ａ　勢いで言ってみたけど、何聞けばいい？

シルディ　～～～

シギト　そうだ・・な

熊五郎　ラナさん

ラナ　はい？

熊五郎　君はここの王様の事どう思う？

ラナ　立派な王様ですわ。

ラナ　私達メイドや兵士達にも、分け隔てなく優しく接してくれます。

シギト　素晴らしい王だ。

シルディ　お妃様はどう？

ラナ　お妃様ですか・・

ラナの顔が一瞬曇る。

ラナ　お妃様は、王様と同じで優しい人でした。

ラナ　でも・・・・ある日を境に・・

ラナ　別人のようになって・・

ラナ　うう・・あぁあぁぁあぁぁあ・・・・

ラナが頭を抱え絶叫したかと思うと
部屋の電気が消えた。

勇者Ａ　どうしたんだ！ラナ！

シギト　ん～・・

シルディ　なんか、ラナ怯えてたわね。

熊五郎　それに悲しそうだった。

勇者Ａ　この城で何があったんだろう・・

シギト　仕方ない。

シギト　取り合えず、お妃の部屋へ行こう。

みんな　ｏｋ！

みんなはお妃の部屋へやって来た。

シギト　開けるぞ・

シルディ　ん～・何もいないわね・

勇者Ａ　お妃はいないな。

シギト　この部屋を隅々まで調べてみよう。

みんな　ｏｋ！

熊五郎　たいした物無いな。

勇者Ａ　特に怪しい物は

シルディ　（・・・・肖像画・・）

シルディ　ん・・？

シルディ　ちょっと来て！みんな！

シギト　どうした、シルディ。

勇者Ａ　ん？

プル　プルププ（？）

シルディ　私昼間に、このお妃様の肖像画みたの。

シルディ　あんまり良く見てなかったから

シルディ　気づかなかったんだけど・・

シルディ　この肖像画のお妃様の足の近くに、何かいるの。

シルディ　これなんだろ？

勇者Ａ　猫じゃない？

熊五郎　犬にも見えるが・・

シギト　これは・・・・

シギト　魔物・

シルディ　え？

シギト　見てみろ、目の色を。

熊五郎　緑の目・？

シギト　こんな目をした猫や犬がいるか・・？

シギト　お妃はどうやら、魔物をペットとして飼ってたようだ。

シギト　取り合えず、下の階も調べるか。

ガチャン・ガチャン・

シギト　何か上がってくるぞ・・

勇者Ａ　え・・？

シギト　一旦部屋へ隠れろ。

ガチャン・ガチャン・

シギト達はドアを少し開き、隙間から階段の様子を見ている。

ガチャン・ガチャン・

シギト　（・・・鉄の鎧を着た兵士・・）

シギト　（・・・上へ上がっていくな・・）

シギト　（・・・みんな後をつけるぞ・・）

みんな　（・・・ラジャ・・・）

兵士は見張り塔のドアをすり抜けていった。

シギト　（・・・みんなドアを開けて外に出るぞ。）

シギト　（・・・屈んで気づかれないように、近づけ。）

シルディ　ｏｋ・・

上がってきた兵士は、見張り台に居る別の兵士と何か話している。

幽霊兵士Ａ　おい、まただよ・・

幽霊兵士Ｂ　どうした？

幽霊兵士Ａ　お妃様の怒りに触れたメイドが、地下室へ連れて行かれたよ。

幽霊兵士Ｂ　なんだって・・

幽霊兵士Ａ　お妃様もついて行ったらしい。

幽霊兵士Ｂ　それって・・まさか・・

幽霊兵士Ａ　あぁ・・あいつも連れて行ったよ・・

幽霊兵士Ｂ　くわばらくわばら・・・・

兵士はす～っと姿が消えていった。

勇者Ａ　どういうことだ？

プル　プルププ（さぁ・・）

シルディ　あいつってもしかして、足に映ってた魔物のことじゃない？

シギト　どうやら、お妃は自分の気に入らない者を、牢獄へ連れて行き・・

熊五郎　まさか・・・・

勇者A　まさかって？

プル　プルププ（良く分からん・・）

tinue

To Be Con

第４３話　勇者Ａ編　対決？解決！

シギト　地下へ行くぞ

勇者Ａ　おう・・！

シルディ　うん。

シギト達は地下へやって来た。

勇者Ａ　ん～特に何もないな。

プル　プルププ！（あれ！）

幽霊看守Ａ　お前達何者だ？

幽霊看守Ａ　ここへはお妃様から、誰も近づけるなと言われている。

シギト　襲ってきたぞ

幽霊看守Ａが現れた。

幽霊看守Ａの攻撃
特殊技　ダークストーム！
黒い闇が全員を襲う。

勇者Ａは５０のダメージ
シルディは６０のダメージ
プルは５０のダメージ

シギトは３０のダメージ
熊五郎は４０のダメージを受けた。

シギト　小賢しい・・

シギトの攻撃
幽霊看守Ａには当たらない。

シギト　く・・こいつ実体がない・

シギト　炎系の魔法で攻撃するんだ。

シルディ　分かった！

シルディ　いくよー！

シルディの攻撃
精霊魔法　フレイムバースト！
炎の球が幽霊看守Ａの前で激しい炎を伴い爆発する。

幽霊看守Ａに２００のダメージ

幽霊看守Ａ　グアア・・

幽霊看守Ａを倒した。

幽霊看守Ａは煙のように消えていった。

５０００ポイントの経験値、０キル、何にも持っていない。

熊五郎　なんだこいつ・炎に弱すぎる。

熊五郎　つまんねーの・・

シギト　ん～他には何もいないな・・

グオォオオォオオ！！

勇者Ａ　何だこの声・？

シルディ　下の方からするわ・

シギト　しかし、もうこれ以上、下はないはず・・

プル　プルププ（これみて！）

シルディ　どうしたの？プル

シルディ　あぁ・・地面に取っ手がついてるよ。

熊五郎　俺が引張ろう。

熊五郎は取っ手を力いっぱい引張った。

・・・・ズーーーー・・ダン

扉を開くと下に階段が現れた。

シギト　入るぞ・みんな気合を入れろ。

シギト　何かいるぞ！

??　グガアァ

??　人間？

勇者Ａ　なんだこいつは・・

大きな角を生やした獅子のような化け物だ。

シルディ　こいつ人間語しゃべってる！

シギト　お前は何者だ・？

??　おいら？

??　この城の地下牢を根城とするケルベロスってもんだけど？

ケルベロス　なんか用？

勇者Ａ　お前か！掃除婦のおばちゃん、食べたのは？

ケルベロス　へ？おいらが？

ケルベロス　そんなことしないよ

ケルベロス　おばちゃんは、俺に毎日餌をくれてたんだ。

熊五郎　嘘つけ！おばちゃん死んでるじゃないか

ケルベロス　あぁ・・おばちゃん、俺に餌やった後

ケルベロス　急に苦しみだしてさ、突然倒れたかと思うと

ケルベロス　死んじゃった・・あの時は三日泣き続けたよ・・

シギト　む・・心臓麻痺か・・

熊五郎　お前なんでここにいるんだ？

ケルベロス　おいらはここのお妃様に拾われて、飼って貰ってたんだけど

ケルベロス　人間って寿命が短いでしょ？

ケルベロス　みんな死んじまって、おいらだけが残っちまってよ。

ケルベロス　おいら、行くあて無くて、仕方ないから・・

ケルベロス　地下のここで暮らしてたんだ。

シルディ　可哀相に・・

プル　プルププ（孤独ってつらいよな）

勇者Ａ　その割には幽霊があちこちいるな。

ケルベロス　あぁ・・おいら、みんなに、すごい可愛がられててさ

ケルベロス　死んだ後も幽霊になったみんなが心配して

おいらを宥め（なだめ）に来てくれてたんだよ。

ケルベロス　といっても、一部の兵士はおいらの事知らなくて

ケルベロス　図体でかいから、勘違いされて、怖がってた兵士もいたけどね。

勇者Ａ　なぁ、マナさんって知ってる？

ケルベロス　知ってるよ、いつも、かわいがってくれた美人のメイドさんだ。

勇者Ａ　マナさんが言うには、お妃様はある日を境に・・

勇者Ａ　変わっていったって言うんだけど

勇者Ａ　お前なんか知ってる？

ケルベロス　お妃様、なんかオイラに向かって愚痴みたいなこと言ってたな・・

ケルベロス　王様が隣町の姫の母親と浮気してるとか・・

ケルベロス　それから、ちょっと、お妃様ヒステリックになって

ケルベロス　メイドや兵士達に言いがかり付けては

ケルベロス　地下牢に閉じ込めてたよ。

ケルベロス　オイラも付いていかされてさ

ケルベロス　お妃様が牢屋に閉じ込めた兵士に罵倒してるのを

ケルベロス　ずっと聞かされてたよ・・

ケルベロス　マナちゃんも散々罵倒されてたな・・

ケルベロス　可哀相だった・・

勇者Ａ　そういや、ここ来る前に

勇者Ａ　看守の幽霊に襲われたぞ？

勇者Ａ　お妃様に命令されたとかで

ケルベロス　あぁ・・お妃様、死んだ後も俺心配してくれて

ケルベロス　夜盗どもが、オイラ苛めるかもしれないって

ケルベロス　看守幽霊Ａさんを警備につけてたよ。

マナ　ケルベロス！どうしたの？

マナがやってきた。

ケルベロス　あ、マナちゃん、

ケルベロス　なんか知らない人が、ゾロゾロきたんだよ。

マナ　みなさん、ケルベロスは可哀相な子なんです。

マナ　苛めないであげてくださいね。

勇者Ａ　苛めてなんかないよ。

勇者Ａ　なぁみんな

シギト　ふー・・・・・・

シギト　気合いれて乗り込んできたが・・

シギト　馬鹿みたいだな・・

熊五郎　まぁ、猟奇的のもの想像してたから

熊五郎　ちょっと安心したよ。

シルディ　そうね！なんか楽しい！キャハハ！

シルディ　ねね！ケルベロス！私達と一緒にこない？

ケルベロス　え？

シルディ　お腹すいてない？

ケルベロス　そりゃ・・ネズミしか食べてないし、いつも腹ペコペコだよ・

シルディ　決まりね！

シルディ　シギトいい？

シギト　・・・・

シギト　まぁ・・良いだろう

シギト　うちにこいよ、食い物はいっぱいあるぞ。

ケルベロス　いく！ついていく！

マナ　良かったね、ケルベロス！

マナ　みなさん、ケルベロス可愛がってやってくださいね。

プル　プルププ（任せとけ！）

シルディ　うん！

シギト　さてと・・・帰るか・・

熊五郎　よかったよかった、アハハハハ！

勇者Ａ　うちに帰んべ・・眠い・

ケルベロスはシギト達に付いて行く事になり、
ケルベロスを心配して現れていた幽霊も
姿を見せなくなった。
警察はガイコツの死因が、自然死と特定すると

依頼主Ａとアンナを無罪放免とした。

inue

To Be Cont

第４４話　勇者Ａ編　お帰り、タケシ！

シギト　みんなよくやった。

シギト　疲れただろう。

シギト　明日は休みだ。

シギト　ゆっくりしてくれ。

シルディ　はい～！

フィーネ　お疲れ様！

勇者Ａ　早くうち帰って寝よう・・

プル　プルププ（俺も・・ｚｚ）

熊五郎　勇者Ａ、プルまたな

シルディ　またね～！

勇者Ａ　さいなら・

勇者Ａは馬車を猛スピードで走らせ家に帰った。

勇者Ａ　疲れた・・

リン　あ、遅かったね。

勇者Ａ　寝るわ・・

リン　そうね、深夜２時だし。おやすみ～

朝がやって来た。

リン　（勇者Ａまだ寝てる・・・相当疲れたのね・・）

リン　（そっとしておいてあげないと・・・）

リン　（そうだわ・プルちゃんにご飯あげよっと・・）

リンは音を立てないように玄関を出ると、プルの馬車までやってきた。

リン　ぷるちゃん、餌よ～

リン　ん・・？

リン　ええ・・・

馬車の前に誰かが立っている。

リン　あなたは・・

？？　お久しぶり、リンさん

リン　・・・・・

リン　タケシちゃん！！

タケシはリンを優しい目で見つめた。

リン　・・でもそんなはずは・・まさか・・幽霊？

タケシ　違いますよ、足あるでしょ。

リン　でも、あの時・・

リン　確かに死んだはず・・

タケシ　俺助けてもらったんだよ。

リン　え？

タケシ　詳しい事は言えないけど。

タケシ　生きてますよ！

タケシ　家がなかったんで、ビックリしたよ。

タケシ　隣のおばさんが親切に教えてくれ・・

リンはタケシにしがみついた。

リン　タケシちゃん～～～～～！

リン　どれだけ・・・

リン　どれだけ・・・泣いたと思ってるの＞＜

タケシ　・・・・・・・

リンは泣いている。

タケシ　済まなかった、リンさん。

タケシ　もっと早く帰れたんだけど。

タケシ　色々あったんだ・・・

タケシ　でも、俺は・・・帰って来たよ。

タケシ　俺の生きる場所は、りんさんたちの所以外無いって・・・

タケシ　そう、分かったんだよ・

リン　良く分からないけど・・・良かった・・ほんとに良かった・

プル　プルププ（なんだ・・？騒がしいな）

プルはピョンと馬車から飛び出た。

ベチャ・・

プル　プルププ（イタタ・・着地失敗）

タケシ　お、プルじゃないか！

プル　プルププ（誰だ・・？）

プル　プルププ（え・・・お前は・・）

プル　プルププ（タケシ・・？）

タケシ　ただいま、プル

プル　プルププ（お、お前・・生きてたのか！）

タケシ　まぁな！

プル　プルププ（タケシ～～！！）

プルはタケシにからみつく。

タケシ　そんなに抱きつくなよ、体がベトベトだ。

リン　タケシちゃん、お帰りなさい・・

タケシ　（ふ・やっぱり・・戻ってきて良かった・・）

タケシ　（俺の選択は間違っていなかった・・）

タケシは回想し始めた。

回想シーン

トーラス　なんですと・・あなたはこの紋章を見て、全てを悟った

はず。

トーラス　なのに、貴方はあの方達の元へ帰るというのですか・・？

タケシ　そうだ・・

タケシ　確かに、俺はゴーレム族の王子であり
ゴーレム王国再建の義務があるかもしれない。

タケシ　だけど、俺にとっちゃ、そんな義務は知ったこっちゃ無い。

タケシ　もう、過去の事なんだよ。

トーラス　なんという事を・・

トーラス　貴方のために、命を投げ出して貴方を逃がしてくれた

トーラス　王である父君、母君、そして多くの兵士の仇を、討たないでいいのですか？

タケシ　・・・・

タケシ　俺一人では・・奴には到底敵わない・・

タケシ　それに、俺を逃がしてくれた父母が生きてたなら、こう言うよ、

タケシ　「命を無駄にするな、好きな人生を歩め！」ってな。

トーラス　・・・・・・

トーラス　しかし・・あなたが生き残っている事を、あいつが知れば・・

トーラス　貴方は狙われるでしょう・・

トーラス　その時、貴方の仲間である者も、襲われる事になるんですよ？

タケシ　確かにな・だけど、アイツが再び俺の前に現れる時は・・・

タケシ　この世界の終りさ・・・・どこに居ても同じだよ。

タケシ　みんな一緒に死ぬのなら、俺はりんさん達と一緒に、戦って死にたい。

トーラス　そうですか・・

トーラス　分かりました。

トーラス　これ以上話しても、貴方の心は変わらないでしょう。

トーラス　ですが・・・

トーラス　一つだけ・・

トーラス　いつか、私が・・いや・・このマーキュラス宮殿が必要になった時

トーラス　ここへ、お帰りくださいませ。

トーラス　爺はいつまでも、お待ちしております。

タケシ　分かった・・

タケシ　まぁ・・もう少し傷が癒えてから、帰るよ。

・・・・・・・

リン　タケシちゃん・？

タケシ　は・・

タケシは回想の世界から戻ってきた。

タケシ　タケシちゃん、家にはいろ。

リン　勇者Ａにも教えなきゃ。

タケシ　うん、行こう！

・・・・・・・

（ただいま・・）

ｔｉｎｕｅ

Ｔｏ　Ｂｅ　Ｃｏｎ

第４５話　勇者Ａ編　休日！

勇者Ａ　グーガゴゴォ・・

リン　ただいま。

リナ　あらまだ寝てる・・

タケシ　・・・・

タケシ　リンさん、勇者Ａは疲れているようだ。

タケシ　ほっといてやろう。

プル　プルププ（せっかく、タケシ帰ってきたんだ、起きろ勇者Ａ！）

プル　プルププ！（俺の愛の触覚ムチ攻撃だ！）

タケシ　おいおい・・

プルの触覚がむちのようにしなり、勇者の右頬にヒットした。

勇者Ａ　・・・・・

勇者Ａ　誰だ・・・・・俺の眠りを妨げる愚か者は・・・

勇者Ａ　ゴゴゴゴゴゴ・・

勇者Ａは体を怒りのオーラが包んでいる。

プル　プルププ（俺だよ！おら！タケシ帰ってきたぞ！起きろってば！）

プルが勇者Ａに近付いたその時・・・

勇者Ａの目が妖しく光った！

勇者Ａの姿が一瞬消えたかと思うと、プルの後ろに立っていた。

勇者Ａ　馬鹿め・・

勇者Ａ　俺は寝る・・ｚｚ

勇者Ａは振返らず、そう言うと畳で寝始める。

プル　プルププ（・・・・）

タケシ　どうした、プル？

プル　プルププ（見えなかった・・・あの一瞬でここまで・・）

プルはその場に倒れた。

タケシ　プル！

プル　プルプル（勇者Ａめ・・あの一瞬で、俺に１０発もの拳を叩き込みやがった・・）

プル　プルプル（腕を上げたな・・さすが勇者Ａ・・パタ・・）

・・・・・・・

リン　こら～遊んでるんじゃないの！

リン　起きなさいってば～

勇者Ａ　リン～俺ねむいんだってば～

リン　分かってるわよ、でもね、タケシちゃん帰って来たの

リン　タケシちゃん、生きてたのよ！

勇者Ａ　ん～？・・・タケシ～？あぁそんな奴いたよなｚｚ

タケシ　・・・・・・

タケシ　（・・・・ひでぇ・・）

リン　・・・・

リン　ひどい、勇者Ａ・・

リンは俯くと、体を小刻みに震わせている。

リン　私、実家に帰らせていただきます！

リン　勇者Ａがそんな冷たい人だとは思わなかった～＞＜

ダダダダ！

勇者Ａ　！？

勇者Ａ　まて～まてったら！！冗談だよ冗談！！

勇者Ａはバッグに荷物を詰め
玄関に出て行こうとするリンの足に縋り付く。

リン　勇者Ａ言っていい事と、悪い事の区別つけてよね！

勇者Ａ　すまん、ただ普通に感動の言葉並べるのもつまんないだろ？

勇者Ａ　おほん・・

勇者Ａはタケシをいつにない優しい目で見つめると、タケシの肩に
手を置いた。

勇者Ａ　タケシ・・・良く生きて帰ってきたな・・・

勇者Ａ　また会えて嬉しいぞ・・・！

タケシ　マスター・・

勇者Ａ　詳しい事は聞かないが

勇者Ａ　また、お前と一緒に戦えると思うと胸が高鳴るぜ。

タケシ　・・・・

タケシ　マスター・・

勇者Ａ　そうだ・・・・タケシ！

勇者Ａ　俺な～、あれからその日暮らしの生活終えて

勇者Ａ　会社に就職したんだよ！

タケシ　え・・

勇者Ａ　お前も一緒に働かないか？

タケシ　ええ・・？

タケシ　何の仕事？

勇者Ａ　シギトって言う俺の友達がな、傭兵稼業を請け負う事務所をやってるんだよ。

勇者Ａ　まぁ、俺はそこの雇われハンターだな。

タケシ　ふむ

勇者Ａ　おめーが入れば、俺の給料もたぶん上がる。

勇者Ａ　そしたら、夢のマイホームも間近だよ。

タケシ　そっか・・

タケシ　家焼けたんだよな。

タケシ　馬小屋もないし、アパート暮らしじゃ

タケシ　魔物が住む場所もないしな・・・

タケシ　だから、プルの奴馬車で野晒しだったのか・

プル　プルププ（そうなんだよ・・慣れたけど、昼は暑いぜ・・）

勇者Ａ　家の事はすぐには無理だけど

勇者Ａ　取り合えず、明日も仕事だ。

勇者Ａ　その時、タケシもついてこいよ！

タケシ　分かった、俺も行こう。

勇者Ａ　でも、今日は休みだから

勇者Ａ　・ゆっくり寝させてくれ・・リン達とでも積もる話でもしてくれ。

勇者Ａはそう言うと、眠りに入った。

リン　タケシちゃん散歩しよっか・

リン　プルちゃんもおいで。

プル　プルププ（うん！）

タケシ　行こう

三人はアパートを出た。

プル　プルププ（それにしても、勇者Ａ冷たいな～・・）

タケシ　そうでもないさ・・あれで、勇者Ａは気を使ってくれてんだよ。

プル　プルププ（そうなのかな～・）

タケシ　いいなぁ・・この村の風景、全く変わってないよ

リン　そうかもね、田舎だから、開発も全くされてないし

プル　プルププ（変わったのは俺の馬小屋が、馬車になっただけさ・）

プルは遠い目をしている。

タケシ　ハハハ、お前も苦労してそうだな

タケシ　リンさん、俺さ・・

リン　ん？

タケシ　いや・・・

タケシ　俺・・取り合えず・・家を建てる資金ためるために、頑張るよ！

リン　ありがとー。

プル　プルププ（俺も馬車生活脱出のために、頑張るぜ！）

To be Continue

悪者たちのぶつくさ3　続編　改に続きます。（前書き）

中だるみのため、書いてる本人まで、この話がかったるくなってきたので
投げやりなエンディングですが、ここで終了です。
悪者のぶつくさ1から見ていただいた読者の皆様
ありがとうございました。と思ったんですが
ちょっと趣向を変えて、また新たに書き始めます。
この物語の続きは　悪者たちのぶつくさ3　続編　改！　で書きます。
よろしければどうぞ。

悪者たちのぶつくさ3　続編　改に続きます。

勇者Ａ　さぁ、出勤だ、タケシいくぞ、

タケシ　おう！

リン　いってらっしゃーい

プル　プルププ（行ってくるぜ！）

こうして勇者Ａの旅はまだまだ続きます。沢山の謎を残して、この物語は

終りを告げます。

勇者Ａ　みなさん、さいなら〜！

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n5951e/

悪者たちのぶつくさ３

2010年10月28日08時46分発行